

議事録

会議名	令和4年度第3回京田辺市総合教育会議
日 時	令和4年12月27日(火) 午後1時30分
場 所	京田辺市役所議会全員協議会室
出席者	上村市長、山岡教育長、西村教育長職務代理者、藤原教育委員、上村教育委員、伊東教育委員 (事務局) 池田企画政策部長、森田企画政策部副部長、鈴木企画調整室指導主幹(教育部副部長)、北尾企画調整室指導主幹(教育総務室担当課長)、鈴木企画調整室主査(教育総務室主査)、藤本教育部長、上原教育指導監、片山こども・学校サポート室総括指導主事、田原学校教育課長、西村学校給食課長、七五三社会教育課長
審議内容	・ 協議事項 学校教育審議会の第1次報告について

○議事

・ 協議事項 学校教育審議会の第1次報告について

市長 田辺中学校と培良中学校の生徒数について、特に部活動に顕著な影響が出ていくと思うので、早急に対応していく必要がある。また、学校教育審議会において示される中間答申に向けて、市長部局と教育委員会が連携して進めていくことが大切かと思う。住宅開発を所管する部局と教育委員会とが密に連携していただきたいと思っている。住宅を販売される段階で校区設定は変更できないが、建設の協議の計画段階では可能である。

校区を越えて選択される学校に培良中学校をやってきたとしても、結果として直ちに偏在が解消される状況にはならない。即座に効果がでないのであれば、校区の変更をどうするのかという事を、しっかりと短期的な課題だと認識して取り組んでいただきたい。

教育長 学校教育審議会において出てきた意見、方向性を説明させていただく。

単に偏在を解消するために校区を変更するというある意味数学的なやり方は市民の理解を得られない。市民の理解を得られる形で協議を進めるには、少し時間がかかるだろうというのがこの中・長期の部分である。ただ、田辺中学校の生徒数増と培良中学校の生徒数減については、小学校ほど校区に市民も地域の方もこだわらないだろうという事で、すぐにでも着手していかなければならないという事で短期的な取組に入っている。

また、小学校というのはいくら新しい住宅が建ったとしても、地域との繋がりも

出てくるので、あまりむやみに校区を違うところにというのは言いにくい。ただマンションのように戸数が多くなると、それがひとつのコミュニティになるので、それがひとつの学校であれば問題はないという事もある。

培良中学校の生徒数が減少するなか、部活動をしっかりとしていく事が教育活動でも大きな部分だと思う。特別活動というのは人間力を育てていく上では、学力だけではない部分をしっかりと育てるために必要なので、そういう機会をしっかりと確保するという事で何らかの手だてをしていかなければならない。

教育委員 培良中に特化した魅力化の特色を持たせていく事はひとつの試みで、すぐにたくさん移動するという事はあまり考えられないが、やっていかなければならない。より一層注目を引くような教育内容で考えられたらしい。

教育長 新しい学校を建てるのかという事に対して、事務局からは既存の学校でという事でお答えさせていただいた。これからもし他の所にと考へて、用地の確保や経費、工事の時期などを考へるとピークを越えてしまう。市全体でいうと収まる生徒数だから、全体で考へて行かなければならぬ。

市長 住宅開発でいうと段階的に制御されていくのであれば、世代が徐々に違うので学校の在り方をもう一度どうするかという事になるかと思うが、これが一時開発になるとほぼ同世代の住人の方でお子さんもほぼ同世代で、教育だけでなく行政を司る者からすると、一気に高齢化する状況でどういうまちづくりをしておかなくてはならないのか考へなくてはいけないので、新設校というのは難しいだろうと考える。

教育委員 先程、市長が住宅建設等のある時に、そこの地域は校区の線引きも教育委員会と相談してやればどうかというご意見があつたが、それは事実としてあるという前提ですか。

市長 新田辺駅近辺に關していくと、マンション開発等が計画されてたり、そういう意図で敷地を買収されたような経緯があるのであれば、市長部局と綿密に調整をして、この校区はこっちにしていただけたらいいんじゃないかとかいうのはありだろうと思う。ただ、三山木で大きいマンションがされるとなると、三山木小学校から他の小学校に行けというのは難しいかもしれない。まずは最初の協議段階から、教育委員会と建設部と綿密にやつておいてどこをどう繋げていくかというのを考へておいた方がいいのではないかというのが問題意識としてある。

教育委員 培良中学校の特色化を図る時に実質効果が出てくるのは少し時間がかかるだろうというご意見いただいたが、とりあえず特色あるものを提示し可視化しないと当然来てはいただけないので、その辺りは時間との勝負かなど個人的には思って

いる。

市長 まずはこんな学校にしますと、今それぞれの学校の中でも次入ろうとしている方に選択肢をお示しするというのは大事だろうと思う。ただ、その選択肢を示していくなり 500 人移るという事にはならないし、もしかしたら 10 人かもしれない、20 人かもしれないが、最初の一歩は作っていく必要があるのではないかと思う。

教育委員 親なり子どもが中学校に対する期待値という所で考えると、やっぱり部活動はすごく大きくて小学校と一番違う部分であるのと、親は高校進学に向けてという所をすごく重要視する。特色化で魅力があるという事を打ち出す時に、高校進学の方が結果を出すのに時間がかかる。部活動というのは次こういう部を作りますとか、こういう内容をしますという事を提示すれば、すごく魅力のある提案というのはしている。今、子ども達、保護者が魅力を感じる部分という所を私達が考えなければならない所かなと思う。それは田辺中学校も同じで、人数が多いから部活動も難しい部分がある。そういう所を丁寧にひとつひとつ拾い上げて考えていけたらと思う。

教育委員 培良中学校に対しては大変意義のある方向性だなと思っている。ひとつひとつの中学校に特色があつてその学校に行きたいという形で子ども達、保護者が選んでいくという方向性はいいが、物理的な面、偏在をいかになくしていくかという事は今後ずっと続していく問題だと思っている。開発の際に教育委員会と連携してしっかりと地の部分からの対策を取っていくという事は大切な事だと改めて思ったし、また中・長期的な面では、校区編成という事も考えて行かなくてはならない一つの観点かと思った。培良中学校の特色化に関しては、早急にしなければならない問題のひとつだと思うので、全市から子ども達がそこへ行きたいというふうに思ってもらえる事は大切な事だし、培良中学校もそれで活性化にも繋がっていく第一歩だと思うので、できることからどんどんと着手していくべきだと考えている。

市長 校区を越えて選ばれる学校にしていくには、何をもつて特色を出すかという事だろうと思う。例えば教育課程の何をもつて特色を出すか、部活動ならば既存と何の違いが出てくる部活になるのかという事をもう少し詰めていかないといけない。今でも 3 中学それぞれ魅力がある中で市内の小学生は 3 中学に来てくれている。そこからあえてもう一步踏み込んで培良中学校に来るという事になるには、教育課程プラス部活、それ以外に地域との連携や、様々な社会体験や、進学だけではない価値観を盛り込んだ形で魅力を出していかないといけない。その為にはさらなる教育委員会と市長部局との連携を進めて、培良中学校を皆が選択できるような学校作りをベースに考えていかないといけないと思っている。